

## 令和2年度 第3回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会 (会議概要)

- 日 時 令和3年 2月12日(金) 午後1時30分から3時30分
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センターにこふる 3階 大会議室
- 次 第 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 説明・報告・協議
  - (1) 市民アクションプランの体系(案)、アンケート調査項目(案)の説明  
事務局 地域包括ケア推進室
  - (2) 協 議
    - ① 地域医療について市民周知や広報の手法を考える
    - ② 地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには
    - ③ 地域医療市民勉強会のあり方を考える
  - (3) その他 次回、市民委員会のテーマについて
- 4 その他
- 5 閉 会
- 出席委員  
瀬尾利加子(委員長)、本間志保子(副委員長)、北風寸美、木村博之、佐藤明美、  
土田三香子、原田藤四郎、本間優子、真島正博、水口英俊  
秋山美紀(コーディネーター・オンライン参加)、福原晶子(オブザーバー)、迎田健(オブ  
ザーバー)、鈴木千晴(オブザーバー)、三科武(オブザーバー)、鈴木聡(オブザーバー)
- 市側出席職員  
健康福祉部長 渡邊健、地域包括ケア推進室長 佐藤清一、地域包括ケア推進室調整専門員  
佐藤正、同室調整専門員 帯谷友洋、同室主事 三浦巧、同室保健師 東海林志保、荘内病  
院事務部長 佐藤光治、同参事(兼)総務課長 今野一夫、同医事課長(兼)地域医療連携  
室主幹 土田信一、同地域医療連携室室長補佐 富樫 清
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0人
- 審議事項(テーマ1、2は、グループワーク テーマ3は全体審議)  
テーマ1:「地域医療について市民周知や広報の手法を考える」  
テーマ2:「地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには」  
テーマ3:「地域医療市民勉強会のあり方を考える」
- 委員発言要旨  
テーマ1「地域医療について市民周知や広報の手法を考える」  
～ グループワークのまとめ ～
  - ・ 荘内病院や医療機関について広く市民に周知するために、市の広報に定期的に同じスペース  
に同じテーマで掲載してはどうか、また作成について編集委員を編成してはどうか。
  - ・ 広報の設置場所として、他市の事例にもあるようにスーパーマーケットにも設置し、いつで  
も市報が見られるような環境づくりも必要である。

・年代ごとにかかりやすい病気があるが、20代、30代、40代向けなど年代ごとに周知する必要もあるのではないか。そのためにも市の広報の担当の方と、市民の声も入れることが出来るように、年に何回かこのメンバーが集まって打合せをしていってはどうか。

・SNSで若い人向けに鶴岡市のホームページなどにて、荘内病院のことや患者さんの声などいろいろな医療に関する紹介するページがあったらよい。

・私たち市民委員自身も勉強会などをして、医療知識の裾野を広げていきたい。例えば女性センターなどの講座の中で、医療機関の先生の出前講座を聞いたら、認定証を配布し、さらにその認定証を受けた方はその地域で講座の講師役ができることとし、認知症オレンジサポーターのように広がっていく流れを作れたらよい。

・これから実施する地域医療市民アンケートを通して、市民が今何をしたいのか、どんなことを聞きたいのか、などをしっかりくみ取って、それに基づいて広報で発信していく。

以上がグループで出された意見。

## テーマ2「地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには」

### ～ グループワークのまとめ ～

・アンケート内容の言葉の一つ一つが市民が理解できない用語となっている。  
・何のためのアンケートなのかと明確にする必要があるのではないか。  
・手法については、若い世代の人たちの回収率を上げるため、QRコード等を使って周知する。  
・外国人の方もアンケートの対象者として良いのではないか。ただ、観点が違う問題を持っているのではないかということもあり、違う方法で外国人の方の対象者を別枠としてアンケートをとってみても良いのではないか。

・アンケート内容について、「満足している点を教えてください」という内容になっており、何が満足しているのか、何を改善してほしいのかを書けるようにし、きちんともっと細かく書いていけるようなアンケート用紙にした方がよい。

・鶴岡市民の中でだいたい何人位対象者を絞れば良いかだが、無作為に抽出してアンケートを取ると2割から3割ぐらいの回収率しかない。最大この規模であれば2千人ぐらいのデータが集まれば、意見としてまとめることができるのではないか。よって1万人に配布すれば、アンケートとしての精度が高まる。1万人をどのように調査するか、そこが今後の課題となる。

以上がグループで出された意見。

コーディネーター：今までこの市民委員会というのは学ぶ段階だったと思う。荘内病院の鈴木聡院長や瀬尾利加子委員長の講演を聞いたり、地域包括ケア推進室や荘内病院より様々なデータというのを出していただき、私も含めて委員の皆さんが基礎知識を得て力を蓄えるという段階だったと思う。いよいよその力を発揮してアクションプランを作る段階に入ったということになる。当初、私もアクションプランはどんなものが想定されているのか、あまり見当がつかなかったが、このように事務局にてたたき台を作ってもらいと、改めて地域の、そして鶴岡市の地域医療を良くしていくために市民が一丸となって取り組んでいく、そのための大事な道標になるような計画表だと理解が出来た。今日は、このたたき台があったおかげでとても活発に意見が交わされたと思う。わくわくするような意見が出ていたと、発表を聞いて感じたし、私が参加していたグループでも、新しい視点あるいは厳しいけれども建設的な意見というのが数多く出ていた。この市民

アクションプランの市民という言葉には、すべての鶴岡市民、鶴岡に暮らすあらゆる人というのが含まれていると思う。鶴岡に暮らす全ての人というのは委員の皆さんもちろんだが、医療を提供する側の皆さん、病院の職員とか市役所の職員とかもろもろ含まれて、オール鶴岡市民で取り組んでいくのだということも、今日このアクションプランを拝見して感じた。そうした意味で、今日は、いつもオブザーバーとして出席の三科先生や鈴木先生だけではなく、医師会長の福原先生、歯科医師会副会長の迎田先生、薬剤師会長の鈴木先生にもご参加いただけて、議論を聞いていただけて大変良かったと思う。オール鶴岡市民で作って行くものなので、オブザーバーの先生方からもどんどんご意見をいただきながら、せっかくやる広報、アンケートというのが、より良いものに、鶴岡市民みんなにとって良いものになっていくように引き続き皆さんのお知恵、ご支援をいただきながら私も学ばせていただきます。

委員長：最初、思い出すまでみんな時間がかかったが、思い出してしまえば議論が進んで、たくさん意見をいただき委員の皆様にも恵まれたと思って見ていた。細かいところのアクションプランの内容とか体系などは事務局の方と相談しながら提示して行けるようにする。

テーマ3「地域医療市民勉強会のあり方を考える」（全体審議）

委員長：最初に皆さんと一緒に話し合ったときに、「広報」と「データ収集」と「市民の勉強会」の3つに分かれて、この3つが必要だという話になっていた。広報の市民周知のグループのなかで、市民勉強会を活用し市民周知していこうという話題が出ている。

よって、市民勉強会については広報グループで議論するという理解で皆様よろしいか。データ収集の皆様からもご協力いただく部分があるのでよろしく願います。

事務局の皆さん、その考えでよろしいか。

事務局：はい、そのとおり。

（3）その他 次回、市民委員会のテーマについて

委員長：「その他」としまして、次回市民委員会のテーマを委員の皆さんで決めたいと思う。まず初めに事務局から提案があるので、説明を願います。

事務局：次回の市民委員会のテーマは、「これまでの市民委員会を振り返って」～来年度の市民委員会の内容の検討～としたいが、いかがか。

委員長：委員のご意見、こういったものを参考にといったアイデアなどがあればお願いしたい。私から今既に鶴岡の方で設置してある医療情報を提供してくれるツールの紹介とか医師会で見られる医療機関のホームページとか、Net4uといったツールについて学習する時間が今までではなかったと思うので、そのような話を聞く時間も設けたらどうかと思うが、いかがか。

事務局：よろしいと思う。検討する。

委員長：からだ館の方で患者会とかいろいろされていると聞いたので、医師会とからだ館の二本

立てなどできると思うので、ぜひ検討ください。

#### 4. 「その他」

委員：協議をしなければいけない委員会時には事前に資料をいただくと、よく目を通してこれるので、次回から事前にいただければ大変ありがたい。

事務局：ご意見ありがとうございます。次回から事前に送付するようにする。

事務局からの連絡になりますが、＜市民アクションプラン・アンケート調査への意見＞という用紙を記載いただきまして、2月26日まで地域包括ケア推進室までお送りください。記載いただいた内容を次回委員会までまとめて、また市民アクションプラン等にも反映し、委員の皆様にも再度確認いただきたいと思う。

またグループワークで、お手元に皆様方メモして頂いたが、それについても回収させていただく。もし可能であれば、オブザーバーの皆様も協力いただければありがたい。

#### 5. 閉会